

E045 箱根西坂の念仏石 (静岡県GEO
DATA(28)特集4 : 地学散歩(107))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2024-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 増島, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000676

E045 箱根西坂の念仏石



地理院地図 (電子国土Web)

箱根旧街道は江戸時代に制定された東海道の難所の一つであった。箱根峠（標高 846 m）以西は伊豆国（三島市と函南町）に属し、「西坂」と呼ばれ、石畳が敷かれていた。

箱根山西麓は箱根火山や富士火山起源の風化火山灰層に厚く覆われており、旧街道沿の溶岩露頭は非常に少ない。

西坂で溶岩が観察できる場所は、標高約 680 m、接待茶屋跡を少し下った「念仏坂」である。ここは西坂一番の難所で、往時の旅日記では「雨天には馬も人も尻もちをつき、泥まみれになり、生き地獄の場所」とある。往時はここで行き倒れになった旅人も出たため、供養する「念仏石」が設置されている地点である。

露出している溶岩は、箱根火山の外輪山を形成する成層火山群の一つ「海ノ平火山体」（約 27 万年 前・火口は芦ノ湖南東部にあったと考えられている）の安山岩質溶岩である。

同岩は板状に剥離するため、表面は人為的に削られている。周辺の石畳を観察すると、露頭と同質であり、サイズは露頭近くの石が大きく、離れるに従って小さくなっている。

往時を思いながら、箱根路を歩き、やや下手の戦国時代末に豊臣軍と北条軍の激戦地「国史跡・山中城址公園」も見学していただきたい。 (増島 淳)